6章　近世Ⅰ

問題

【1】

解答

a	09	b	24	c	28	d	03	e	15	f	27	g	36	h	12
i	22	j	32	k	33	l	05								

解説

ルネサンス期の文芸・美術・自然科学全般を取り扱った問題。一部細かい事項も含まれるが，概ね標準的なレベルの設問なので，確実に正解したい。

とはいっても，ルネサンス時代に活躍した人物はとても多く，一人一人についてきっちりとその業績を把握していかないとすぐ混乱してしまう。各人それぞれが，まずどの地域の，どのような時代に活躍したのか。また，どのような友人関係を持っていたのか。そうした背景を一つ一つ押さえていき，さらに各人の業績については，作家にしても画家にしてもその代表作品の具体的な内容にまで踏み込んで確認しておきたい。最低限，資料集や教科書の図版などには目を通しておこう。そしてさらに，時間的余裕があればルネサンス期の美術展や美術書などを実際に“見て”ほしい。単なる無味乾燥な暗記作業に終始するのではなく，様々な角度からルネサンスという時代を理解する気持ちを持つこと，これが“文芸復興”“人文主義”と謳われたルネサンス期を理解する一番の方法である。単なる暗記ではない，これからの自分自身の“教養”を深めるという観点から，学習を進めてみてはどうだろうか。

a　ここの部分ではダンテ→ペトラルカ→ボッカチオと14世紀のフィレンツェで活躍した人文主義者がまとめてある。ここで問われているペトラルカの代表作としては『叙情詩集』を押さえておこう。

b　これは即答できなければ困る。ここで取り上げられている「天地創造」「最後の審判」はいずれもヴァチカンのシスティナ礼拝堂を飾っている絵である。

c　ボッティチェリはメディチ家の保護を受け，フィレンツェで活躍した。とくに女性美の表現に特徴があるといわれている。代表作は問題文に挙げられている「ヴィーナスの誕生」のほか，「春」を押さえておくとよいだろう。資料集で実際の図版もチェックしておくこと。

d　サン＝ピエトロ大聖堂は，ユリウス２世の時代に大改築が始められ，ブラマンテ・ラファエロ・ミケランジェロらが設計・建築に関わった。

e　宗教改革の先駆者として，イギリスのウィクリフとともに，ベーメンのフスについても押さえておこう。

f　エラスムスと親交のあったイギリスの法律家・思想家という問題文の説明から，トマス＝モアと判断できるだろう。「貨幣制度のない一種の共産主義社会」を描いた書物とは『ユートピア』をさす。

g　ラブレーの著した２部作は『ガルガンチュアとパンタグリュエルの物語』と呼ばれる。

h　ボッカチオの『デカメロン』はペストの流行を避けた10人の男女が語り継ぐ形式を取っており，『カンタベリ物語』はカンタベリ寺院詣での巡礼の一団において，様々な社会的階層の人々が1話ずつ物語を披露する形式を取っている。

i　エドマンド＝スペンサーの『神仙女王』は，処女王エリザベス1世を讃えた作品として名高い。

j　「13世紀」「近代的な自然科学の先駆者」「イギリス人」というキーワードからロジャー＝ベーコンが正解となる。13世紀のロジャー＝ベーコンは近代自然科学への道を開いた人物であるが，それから3世紀後の16世紀のフランシス＝ベーコンはイギリス経験論を確立し，近代自然科学の基礎を築いた人物である。両者の区別をしっかりとつけておこう。

k　ニコラウス＝クザーヌスはなかなか細かい事項であるが，このように地動説と関連して出題されることもある。要注意。

l　ガリレイと同時期のイタリア人で地動説を唱えた人物としてジョルダーノ＝ブルーノは覚えておきたい。彼は異端の宣告を受け，火刑に処された。

【2】

解答

(1)　b　(2)　c　(3)　a　(4)　d　(5)　c　(6)　a　(7)　b　(8)　c

(9)　b

設問A　ラファエロ　設問B　『君主論』　設問C　『ユートピア』

解説

ルネサンス期の文化の問題。記述式問題は基本的な内容だが，記号選択式問題にはやや難しいものが混ざっている。以下の解説を参考に，ルネサンスに関する知識を深めておくとよいだろう。

(1)　bのトレドはイベリア半島に位置する都市なので誤り。イスラーム文化の西欧への窓口としての役割を果たした都市である。

(2)　aの『デカメロン』の著者はボッカチオ。bの『アフリカ』はペトラルカの作で，ラテン語の叙事詩であり，古代ローマへの憧れを歌ったもの。dの『神曲』はダンテの作品。

(3)　やや難問。aは正しい文章。コジモ＝デ＝メディチ（1389～1464）は1434年にフィレンツェにおいて政権を奪取し，メディチ家の独裁時代が始まる。1453年にビザンツ帝国が滅亡し，多くの学者・書籍がフィレンツェに流入すると，コジモは古典研究のためのアカデミー（プラトン学園）を設立した。よってbは誤り。dのトスカーナ大公となったのはコジモ1世（1519～74）であるので誤り。トスカーナ大公となる「コジモ1世」は，普通受験生が知っている人物ではないので気にすることはない。cにある教皇アレクサンデル6世となる人物はボルジア家のロドリゴであるが，これも受験に必要な知識ではない。ただ，アレクサンデル6世は1493年の植民地分界線（教皇子午線）を勅書で定めた人物として受験でも必要な知識を含む。

(4)・(5)　文化史の基本知識で解答可能。

⑹　やや難問。近代的遠近法は15世紀初頭にブルネレスキによって創始されたと考えられている。よってａは誤り。ｃの「最後の晩餐」はミラノの聖マリア＝デッレ＝グラツィエ教会の修道院の食堂に描かれたもの。レオナルド＝ダ＝ヴィンチの晩年のパトロンはフランス王フランソワ１世である。

⑺　システィナ礼拝堂の壁画・天井画として「最後の審判」「天地創造」などの旧約聖書の場面が描かれている。選択肢にある「ダヴィデ」「ピエタ」「モーセ」は彫刻作品。

⑻　文化史の基本知識で解答可能。

⑼　ｂはドイツのロイヒリンについて書いた文であるので誤り。ａ・ｃはエラスムスに関する基本知識である。ｄにあるように，ルターは奴隷のごとく神の意思に従って生きる奴隷意志論を唱えたため，エラスムスの自由意志論とは対立した。

設問Ａ　問題文にある「多くの聖母子像」が解答の鍵。「大公のマドンナ（聖母）」「椅子のマドンナ（聖母）」などがそうである。ラファエロに関する受験知識としてはヴァチカンの署名の間にある壁画「アテネの学堂」もお忘れなく。

設問Ｂ　マキャヴェリは『君主論』の中で，イタリア統一のために君主に「獅子の力と，狐のずる賢さ」を求めると主張した。

設問Ｃ　トマス＝モアが『ユートピア』で第１次囲い込みを「羊が人間を喰い殺す」と批判したことは有名。トマス＝モアがヘンリ８世の離婚に反対して処刑されたことも知っておくこと。

【3】

解答

Ａ　トスカネリ　　Ｂ　プレスター＝ジョン（聖ジョン）　　Ｃ　タタールの平和

Ｄ　ルブルック　　Ｅ　サンサルバドル　　Ｆ　コルテス　　Ｇ　エンコミエンダ

Ｈ　ラス＝カサス

解説

大航海時代とその影響についてまとめた問題。記述式だがほとんどが基本問題であるため，不用意な失点をしないように設問に取り組みたい。

Ａ　フィレンツェの地理学者であるトスカネリは，地球球体説に基づき，インド航路よりも大西洋を西に進む航路のほうがアジアへの近道になると主張し，コロンブスの航海に影響を与えた。

Ｂ　アジアにキリスト教司祭の聖ジョン（ヨハネ）がいるとの伝説は12～16世紀に西欧に広まった。この聖ジョンの国と手を結ぶことで，イスラーム勢力の挟み撃ちが考えられた。

Ｃ　タタールとはモンゴルのこと。「タタールのくびき」や「タタールの平和」などの語が教科書にも登場する。「タタールのくびき」はモンゴル人のロシア支配をさす言葉であり，「タタールの平和」とは13世紀にモンゴル帝国によってもたらされたユーラシア大陸の相対的安定を表す言葉である。

Ｄ　プラノ＝カルピニは第３代グユク＝ハンと謁見，ルブルックは第４代モンケ＝ハンと面会している。ともにカラコルムを訪れたフランチェスコ会の修道士である。

E　サンサルバドルとは「聖なる救世主」の意味である。

F　コルテスは1521年に，都のテノチティトランを征服してアステカ王国を滅ぼした。その後にスペイン王カルロス１世によって総督に任じられたが，統治権をめぐり対立し，晩年は権力からは疎外された。

G　スペイン王が入植者に対して，征服地の先住民のキリスト教改宗を条件に，その土地と住民の使役を認めた制度。酷使やヨーロッパからの伝染病により先住民人口が激減したことで，16世紀後半には制度の維持はできなくなった。

H　“インディオの使徒”と呼ばれるラス＝カサスはドミニコ派の修道士で，『インディアスの破壊についての簡潔な報告』（1552）で先住民の保護をスペイン王カルロス１世に訴えた。

7章　近世Ⅱ

問題

【1】

解答

1　ウィクリフ　　2　アヴィニョン　　3　教会大分裂（大シスマ）　　4　1381
5　ワット＝タイラー　　6　ジギスムント　　7　コンスタンツ公　　8　プラハ（カレル）
9　メディチ　　10　レオ10世　　11　フッガー　　12　サン＝ピエトロ　　13　1517
14　ヴィッテンベルク　　15　カール5世　　16　ヴォルムス　　17　フリードリヒ
18　ヴァルトブルク

解説

宗教改革をテーマとした空欄補充問題。設問は教科書レベルなので，取りこぼしなく正解しておきたい。

1　オクスフォード大学神学教授であったウィクリフは，教皇庁の堕落に対して批判を行い，聖書こそが信仰と救済の最高権威であることを示した。彼は教会の禁を犯し聖書の英訳をはかるなど，イギリス宗教改革の先駆者となった。

2・3　教皇のバビロン捕囚（1309～77）によるアヴィニョン教皇に対して，神聖ローマ皇帝カール4世の尽力で1377年に教皇グレゴリウス11世のローマ帰還を実現したが，1378年にグレゴリウス11世が死亡すると，教皇がローマとアヴィニョンに並存することとなった。これが教会大分裂（大シスマ）（1378～1417）の開始である。

4・5　イギリス（イングランド）のウィクリフに関する問題文から，14世紀後半の同地での農民反乱と判断できる。この反乱で農民は農奴制の廃止・地代の固定化を要求した。

6　神聖ローマ皇帝ジギスムントはコンスタンツ公会議の主宰として有名。受験生としては，彼がハンガリー王でもあり，1396年にニコポリスの戦いでオスマン帝国に敗北していることも必須知識である（この戦いの時のオスマン皇帝はバヤジット1世）。

7　コンスタンツ公会議（1414～18）では，教会大分裂中の三教皇を廃し，新教皇を選出して分裂を終わらせた。またこの公会議ではイギリスのウィクリフや，その影響を受け教会批判を行ったベーメンのフスを異端とした。この後にフス派によるフス戦争（1419～36）が発生するが，これは宗教問題と同時に，ドイツ系支配層に対するベーメンのチェコ人による民族的抵抗の要素も含まれたものであった。

8　プラハ大学と通称するが，正式にはカレル大学。1348年に中欧（ドイツ語圏）最古の大学として神聖ローマ皇帝カール4世が設立した（彼はベーメン王カレル1世でもあることから，カレル大学の名が付いた）。フスはこの大学の神学教授を務めた。

9・10　教皇レオ10世はメディチ家最盛期の当主ロレンツォ・デ・メディチの子。

11　南ドイツのアウクスブルクの政商フッガー家は，銀・銅鉱山の特権から大きな利益を得，神聖ローマ帝国や教皇庁の財政とも結びつきが強かった。

12　ヴァチカンに隣接するサン＝ピエトロ大聖堂はルネサンス様式の代表的建築物である。教皇ユリウス２世はブラマンテに依頼し大改修に着手，次いでラファエロ・ミケランジェロらが受け継いだ。

13・14　ザクセン地方のヴィッテンベルク大学神学教授であったルターは，「人は信仰によってのみ義とされる」と訴え贖宥状を批判し，1517 年に贖宥状販売の一行がザクセンに近づいたことに対して，ヴィッテンベルク教会の門扉に「九十五カ条の論題」を提示した。

15・16　神聖ローマ皇帝カール５世はフランスと敵対関係にあったため，教皇との提携をはかり，1521 年のヴォルムス帝国議会でルター派の説を禁じ，ルターを帝国追放とした。

17・18　帝国追放を宣されたルターを保護したのは反皇帝派のザクセン選帝侯フリードリヒである。ルターがヴァルトブルク城で聖書のドイツ語訳を行ったのは有名。ザクセン選帝侯フリードリヒは 1502 年にヴィッテンベルク大学を設立した人物でもある。

【2】

解答

空欄　1　ヴォルムス帝国議会　　2　ツヴィングリ　　3　ミュンツァー　　4　アンカラ
　　5　マムルーク　　6　スレイマン１世

問１　エンコミエンダ制・ラス＝カサス

問２　当初は農民側に同情的であったが，彼らが身分制秩序の否定を主張するに至り，諸侯の反乱鎮圧を支持した。（49 字）

解説

カール５世期の神聖ローマ帝国に関する問題。設問はどれも基本的。問２のドイツ農民戦争に対するルターの態度は入試頻出であるので，過不足ない論述ができるようにしておきたい。

1　ヴォルムスはライン川中流に位置する都市。1521 年の帝国議会ではルターに対し，福音主義による所説の撤回をせまった。

2　ツヴィングリはスイスのチューリヒで活躍。ルターの影響で改革に着手するが，ルターとは 1529 年のマールブルグでの論争で決別する。1531 年にカトリック勢力とのカッペルの戦いで死亡した。

3　当初ミュンツァーはルターの説を支持したが，現実の社会において「神の国」を打ち立てるべきとしてルターの説を否定した。現世におけるキリスト教による平等な「神の国」「貧しき者の王国」をめざすが，逮捕・処刑された。

4　アンカラは小アジア（アナトリア高原）中部に位置する。アンカラの戦いでオスマン皇帝バヤジット１世はティムールに敗北した。

5　1517 年，オスマン皇帝セリム１世により，マムルーク朝は滅ぼされた。

6　スレイマン１世（位 1520 ～ 66）時代のオスマン帝国の侵入に対し，神聖ローマ皇帝カール５世は国内諸侯の協力を得るために，1526 年のシュパイアー帝国議会でルター派を事実上公認した。しかし 1529 年には第２次シュパイアー帝国議会で再びルター派を禁じたため，国内での新旧両派の対立は激化する。

問１　先住民のカトリック化を条件として，アメリカ大陸への植民者にスペイン王が土地・住民の統治を依託し，先住民の賦役労働で土地経営を行った制度。植民者の過酷な支配の状況を『インディアスの破壊についての簡潔な報告』でドミニコ派修道士のラス＝カサスが抗議した。

問２　ルターは現世での身分秩序は甘受すべしとした。これに対してミュンツァーを指導者とする農民反乱側は，農奴制廃止という現実社会の変革を求めるようになる。このことを知ったルターは当初の同情的態度を捨て，諸侯に反乱の鎮圧を呼びかけた。

【３】

解答

問１　a　黒死病　　b　フィレンツェ　　c　聖書

問２　フランスでカペー朝が断絶してヴァロワ朝が成立し，毛織物工業の盛んなフランドルを支配しようとすると，この地と経済関係の深いイギリスのエドワード３世が血縁関係からフランスの王位継承権を主張，戦争となった。(100字)

問３　デューラー・ホルバインらから１人

問４　贖宥状の購入や教会への喜捨などの善行を積むことで，罪が許されると説いた。(36字)

問５　皇帝権が弱く政治的に分裂していて教皇の搾取を受けやすかったドイツでは，諸侯は教皇の干渉に反発し，さらに都市民は自由を，農民は封建制の重圧からの解放を求めていた。(80字)

問６　ツヴィングリ・カルヴァン

問７　オスマン帝国のスレイマン１世はウィーンを包囲してカール５世を圧迫した。そのためカール５世は国内のルター派諸侯との妥協を余儀なくされ，最終的に1555年にアウクスブルクの宗教和議が結ばれた。この間にフランスはオスマン帝国と同盟を結び，ドイツ国内のルター派諸侯を支持し，イタリア戦争でカール５世と対立した。(149字)

解説

近代ヨーロッパへの転換を取り上げた問題。空欄補充・一問一答問題は基本レベルのもの。論述問題で課されているテーマもさほど難しくないので，積極的に取り組んでおこう。

問１　a　14世紀中頃の西ヨーロッパでは，黒死病（ペスト）が大流行した。この時には，人口の約５分の１から３分の１が死亡したといわれる。農村人口が激減したため，領主の直営地における農民の賦役が困難になり，領主は農民に保有地を与えて地代を徴収するなど，農民の待遇改善を行った。

b　フィレンツェは北イタリアの都市共和国で，毛織物工業や金融業などで繁栄した。15世紀にはフィレンツェの大富豪であったメディチ家が支配権を握った。メディチ家が文芸を保護したことから，ルネサンスは，まず北イタリアのフィレンツェが中心となった。

c　教会が贖宥状を出したことに反対し，ルターが1517年に九十五カ条の論題を発表して宗教改革が始まった。ルターは聖書を信仰の中心とし，善行ではなく，信仰によって魂は救われると主張した。ルターはザクセン選帝侯フリードリヒにかくまわれている間に，初めて聖書をドイツ語に翻訳した。

問２　現在のベルギー地方にあたるフランドルは，当時毛織物工業が発達して豊かであった。そのためフランス王はフランドルを直接支配下に置こうとした。これに対し，羊毛生産が盛んであったイギリスは，フランドルに羊毛を輸出していたため，フランス王がこの地を支配することを嫌った。1328 年にフランスでカペー朝が断絶してヴァロワ朝が成立すると，イギリスのエドワード３世（位 1327 ～ 77）は，自分の母がフランス王の娘であるという血縁関係を理由にフランスの王位継承権を主張した。その結果イギリス軍がフランスに上陸し，百年戦争が始まった。

問３　ルネサンスはイタリアからその他のヨーロッパにも広がった。絵画では，ネーデルラントのファン＝アイク兄弟やブリューゲル，ドイツのデューラーやホルバインが出題されることが多いので覚えておこう。デューラーは代表作「四使徒」のほか，多くの版画を残したことで有名。

問４　カトリック教会やローマ教皇は，納税を免除された広大な土地を所有し，世俗化していた。また，贖宥状の購入や教会への喜捨といった善行を行うことで罪が許される，と説き，蓄財に利用していた。とくにローマ教皇レオ 10 世（位 1513 ～ 21）はサン＝ピエトロ大聖堂の修築費を捻出しようと，ドイツにおける贖宥状の販売を許可した。ドイツは政治的に分裂しており，ローマ教皇やカトリック教会の搾取を受けやすかったのである。こうした状況に反発したルターが「九十五カ条の論題」を発表し，宗教改革が始まった。

問５　宗教改革が始まった頃のドイツは，皇帝権が弱く諸侯や都市が分立しており，政治的に分裂していた。そのため，カトリック教会やローマ教皇の搾取を受けやすくなっていた。ドイツで贖宥状が販売されたのも，こうした社会状況を背景としていた。諸侯らはカトリック教会やローマ教皇による搾取に反発しており，さらに都市民は自由を，農民たちは封建制の重圧からの解放を求めており，ルターを支持した。また，活版印刷術が普及してルターの思想が人々に広がりやすかったことも背景として挙げられよう。

問６　スイスでは，16 世紀前半にチューリヒでツヴィングリが宗教改革を始めた。しかし，ルターとの協力関係は成立せず，改革は彼の死で頓挫した。次いで，カルヴァンがジュネーヴで宗教改革を行った。彼は聖書を信仰の中心とし，魂の救済はあらかじめ神によって定められているとする予定説を説き，世俗的な職業労働を神の栄光を実現するためのものとして肯定した。そのため，カルヴァン派は新興の商工業者に広く信奉された。カルヴァン派はイギリスではピューリタン，ネーデルラントではゴイセン，フランスではユグノー，スコットランドではプレスビテリアンと呼ばれた。

問７　16 世紀のオスマン帝国はスレイマン１世（位 1520 ～ 66）の治世で，最盛期を迎えていた。スレイマン１世はハンガリーを支配下に入れ，1529 年にウィーンを包囲してドイツ皇帝カール５世（位 1519 ～ 56）を圧迫した。当時のドイツ国内では皇帝とルター派諸侯が対立しており，対外的な危機に対して皇帝はルター派諸侯と妥協し，1526 年のシュパイアー帝国議会でカール５世はルター派の布教を容認したが，29 年の帝国議会ではルター派を禁止した。これに対してルター派が抗議文を出したことから，彼らはプロテスタントと呼ばれるようになった。1530 年にルター派の諸侯・都市はシュマルカルデン同盟を結び，46 年には皇帝派との間で戦争が起こった。しかし再度オスマン帝国軍がハンガリーに侵入してきたことなどが背景となり，1555 年にアウクスブルクの宗教和議が結ばれた。カール５世はル

ター派の信仰を認め，諸侯にカトリックかルター派かの選択権を与え，領民はそれに従うことと定めた。この間，ドイツ皇帝位をめぐりカール５世に敗れたフランスのフランソワ１世（位 1515 ～ 47）はオスマン帝国と同盟を結び，ルター派諸侯を支持してカール５世と対立した。その対立はイタリア支配をめぐっての戦闘にも表れている。

【4】

解答

A　2　　B　5　　C　2　　D　3　　E　4　　F　1　　G　2　　H　2

I　3　　J　4　　問１　(1)　価格革命　　(2)　ザクセン選帝侯フリードリヒ

(3)　エラスムス　　(4)　オラニエ公ウィレム　　(5)　フランシスコ＝ザビエル

問２　(ア)　4　　(イ)　3　　(ウ)　4　　(エ)　2　　(オ)　1

解説

大航海時代・ルネサンス・宗教改革など近代ヨーロッパの成立に関する出題であった。年代整序問題の対策として，重要な事項については正確な年代を把握しておこう。基本的な設問が多い単答問題は，確実に正答したい。

A　a　ポルトガルの航海者バルトロメウ＝ディアスは，1488 年にアフリカ南端の喜望峰に到達した。

b　スペイン人のコルテスは，メキシコ高原で栄えていたアステカ王国を 1521 年に滅ぼした。

c　ポルトガルの提督であったカブラルは，インドに向かう航海の途上で嵐に遭い，1500 年にブラジルに漂着し，この地をポルトガル領と宣言した。

B　a　スペイン国王の支援を受けたポルトガル人の航海者マゼランは，西回りでの世界周航をめざして 1519 年に出発し，南アメリカ大陸の南端を回って太平洋を横断し，21 年にフィリピンに到達した。

b　スペイン人のピサロはアンデス高原に栄えていたインカ帝国を 1533 年に征服し，35 年に新都リマを建設した。

c　ポルトガルの航海者ヴァスコ＝ダ＝ガマは，1497 年にリスボンを出航し，98 年にインド西岸のカリカットに到達した。

C　a　イタリアのジェノヴァ生まれのコロンブスは，スペイン女王イサベル（位 1479 ～ 1504）の援助を受け，西回りでのインド到達をめざして 1492 年にスペインのパロス港から出発した。

b　1545 年にボリビア南部でポトシ銀山を発見したスペインは，アメリカ大陸での鉱山経営に力を入れた。

c　スペインの探検家バルボアは，1513 年にパナマ地峡を横断して太平洋岸に到達した。

D　a　ドイツのルターはカトリック教会による贖宥状の販売を批判して，1517 年に「九十五カ条の論題」を発表した。

b　イギリス＝ルネサンスの先駆者であるチョーサーは，1387 ～ 1400 年に『カンタベリ物語（カンタベリー物語）』を著した。

c　オスマン帝国のスレイマン１世（位 1520 ～ 66）は積極的な外征を展開し，1529 年には

神聖ローマ帝国の中心都市であるウィーンを包囲した。

E　a　イギリス国王エリザベス１世（位 1558 ～ 1603）は, 1588 年にスペインの無敵艦隊（アルマダ）を破って制海権を奪い，イギリスの海外進出の基礎を築いた。

b　ドイツ中部・南部では，ルターの教説の影響を受けた農民が，農奴制の廃止，封建地代の軽減などを要求して蜂起し，1524 ～ 25 年にドイツ農民戦争が展開された。ドイツ中部においては，ミュンツァーが戦争を指導した。

c　1555 年のアウクスブルクの宗教和議により諸侯はカトリックとルター派のいずれかを選択できるようになったが，個人の信仰の自由やカルヴァン派の信仰は認められなかった。

F　a　イギリス国王ヘンリ８世（位 1509 ～ 47）は，自身の離婚問題からローマ教皇と対立し，1534 年に首長法（国王至上法）を制定してイギリス国教会を樹立し，自ら首長となった。

b　フランス国王アンリ４世（位 1589 ～ 1610）は，1598 年，ユグノーからカトリックに改宗した上でナントの王令（ナントの勅令）を発し，ユグノーにカトリック教徒とほぼ同等の権利を与え，ユグノー戦争を終結させた。

c　1648 年に三十年戦争（1618 ～ 48）の講和条約であるウェストファリア条約が結ばれ，カルヴァン派の公認や，ドイツ諸邦の主権承認などが定められた。

G　a　イギリスの政治家・人文主義者であるトマス＝モアは，1516 年に，当時のイギリス社会を批判し，理想社会の姿を描いた『ユートピア』を著した。

b　スペインの支配下に置かれていたネーデルラントには新教徒が多く，スペインが旧教化政策を強化したことから，1568 年にオランダ独立戦争が始まった。1579 年，ネーデルラントの南部 10 州はスペインの圧力に屈して独立戦争から脱落したが，北部７州はユトレヒト同盟の下に結集した。北部７州は 1581 年にネーデルラント連邦共和国（オランダ）の独立を宣言し，1648 年のウェストファリア条約で国際的に承認された。

c　エリザベス１世は 1559 年に統一法を発布し，イギリス国教会の体制を確立した。

H　a　イタリアの政治家・歴史家であるマキァヴェリは，1513 年頃に執筆し，32 年に刊行された『君主論』において，宗教・道徳から切り離された近代的な政治観を提示した。

b　フェリペ２世（位 1556 ～ 98）の治世のスペインは，1571 年のレパントの海戦でオスマン帝国の海軍を撃破した。

c　宗教改革の進展に対抗するため，カトリック教会は 1545 ～ 63 年にトリエント公会議を開き，ローマ教皇の至上権やカトリックの教義を再確認した。

I　a　1534 年，イグナティウス＝ロヨラを中心にイエズス会が結成され，1540 年にローマ教皇に認可された。

b　多分野で活躍したレオナルド＝ダ＝ヴィンチは，1495 ～ 98 年頃，ミラノの聖マリア＝デッレ＝グラツィエ聖堂の壁画として「最後の晩餐」を描いた。

c　オランダは 1602 年に東インド会社を設立し，積極的にアジアに進出した。ジャワ島やモルッカ諸島などを支配し東南アジアで勢力を広げたオランダは，香辛料貿易を独占した。

J　a　フランスでは，王権の強化に反対する高等法院や貴族が 1648 年にフロンドの乱を起こしたが，ルイ 14 世（位 1643 ～ 1715）の宰相マザランによって 53 年に鎮圧された。

b　イタリア＝ルネサンスの先駆者であるダンテは，1304 ～ 21 年にトスカナ語で『神曲』を著した。

c　ハプスブルク家出身のスペイン国王カルロス１世（位 1516 ～ 56）は，フランス国王フランソワ１世（位 1515 ～ 47）を破って，1519 年に神聖ローマ皇帝（位～ 1556）に選出された。

問１　(1)　ポトシ銀山など中南米で採掘された大量の銀がヨーロッパに流入したことにより，ヨーロッパにおける銀価が下落し，物価が騰貴する価格革命といわれる経済的変化が生じた。

(2)　神聖ローマ皇帝カール５世は，ルターを 1521 年のヴォルムス帝国議会に召喚したが，ルターが所説の取り消しを拒否したため，ルター派を禁止した。その後ルターは，ザクセン選帝侯フリードリヒによってヴァルトブルク城に保護され，その城内で『新約聖書』のドイツ語訳を完成させた。

(3)　ネーデルラントの人文主義者エラスムスは，1509 年に『愚神礼賛』を著して教会や聖職者の腐敗を痛烈に風刺した。

(4)　オラニエ公ウィレムはユトレヒト同盟を指導し，1581 年に独立を宣言したネーデルラント連邦共和国の初代総督となった。

(5)　イグナティウス＝ロヨラらとともにイエズス会の設立に携わったフランシスコ＝ザビエルは，インドやマラッカ，セイロン島などで布教活動を行い，1549 年には日本を訪れた。

問２　(ア)　α（誤）　1453 年にコンスタンティノープルを占領してビザンツ帝国を滅ぼしたオスマン帝国の皇帝は，メフメト２世（位 1444 ～ 45，45 ～ 46，51 ～ 81）である。バヤジット１世（位 1389 ～ 1402）は，1396 年のニコポリスの戦いでハンガリー王ジギスムントを破ったが，1402 年のアンカラの戦いでティムールに敗れたオスマン帝国の皇帝である。

β（誤）　1517 年にエジプトのマムルーク朝を滅ぼし，メッカ・メディナの保護権を得たのは，セリム１世（位 1512 ～ 20）であった。

(イ)　α（誤）　ルターは 1524 年にドイツ農民戦争が始まった当初は農民を支持したが，途中からは農民を弾圧する領主側に転じた。

β（正）　ドイツ農民戦争に際して，農民側は領主側に対し，農奴制の廃止などを内容とする十二カ条要求を掲げた。

(ウ)　α（誤）　イギリスでは，1485 年にヘンリ７世（位 1485 ～ 1509）がバラ戦争を収拾してテューダー朝を開いた。

β（誤）　イギリス国王エドワード６世（位 1547 ～ 53）は 1549 年に一般祈禱書を制定し，イギリス国教会の制度や教義を整備した。しかし，次のメアリ１世（位 1553 ～ 58）はカトリック教徒であったため，一時的にカトリックに復帰した。

(エ)　α（正）　フランスでは 16 世紀半ばに新旧両派の対立が激しくなり，シャルル９世（位 1560 ～ 74）の時代の 1562 年にユグノー戦争が勃発した。

β（誤）　カルヴァン派は主に北ヨーロッパに広まり，イングランドでピューリタン，スコットランドでプレスビテリアン，オランダでゴイセンと呼ばれた。南ヨーロッパではカトリックが有力であった。

(オ)　α（正）　スペイン国王兼神聖ローマ皇帝であったカルロス１世（カール５世）は 1556 年に退位し，息子のフェリペ（フェリペ２世）にスペインなどを，弟のフェルディナント（フェルディナント１世；位 1556 ～ 64）にオーストリアを譲った。こうして，ハプスブルク家はスペイン系とオーストリア系に分かれた。

β（正） フランス王家とハプスブルク家との対立は，15 世紀末からのイタリア戦争に始まり，ヨーロッパの国際関係の対立軸となった。この対立は，両者が七年戦争（1756 ～ 63）直前に“外交革命”と呼ばれる協力関係を結ぶまで続いた。

W3M
早慶大世界史

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製